

学生目線でサイクリングマップ

富士市と常葉大
地域活性化へ協働

常葉大経営学部小豆川ゼミと富士市スポーツ振興課はこのほど、協働でサイクリングマップ『eふじサイクル☆for bicycle lovers』を完成させた。学生たちが実際に市サイクルステーション（八代町）でレンタルして

いるe-BIKEに乗りながら市内を走った。取材したりした際に、気づいた実感や課題意識に基づいて制作。若者の目線を生かしたマップとし、自転車による地域活性化を図る。マップは、A3判サイズ（折り畳み式）で、両面カラー。飲食店や

公園、撮影スポット、観光地などのコース途中の立ち寄り地点と共に、「初心者コース」と「中級者コース①②」の全3コースを紹介している。

初級者コースは、市の沿岸・田子の浦を満喫しながら富士山を望める約28・8キロのコース。中級者コース①は、山あり海あり、市内をぐるっと一周できる約36キロのコース。距離もあり、高低差も激しいため、体力のある人にお勧めという。短縮ルー

ス。標高差が少なく、初心者や家族連れでも無理なくサイクリングが楽しめる行程としたほか、コース内の立ち寄り地点には若者向けのSNS映えスポットや、家族向けの公園、飲食店などを厳選したという。

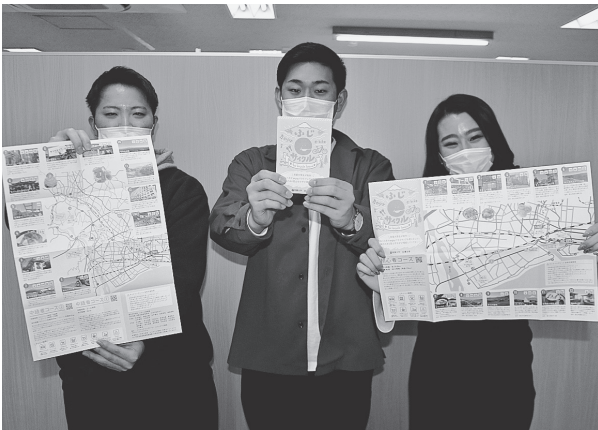
中級者コース②は、富士山と富士川を眺めながら走ることができ、往復約37キロの半日コースと往復約45キロの1日コースがある。距離がありアクティブなコースとなっており、体力が消費されるため、観光スポットで適度に休憩を取り、帰りの体力を維持しながら走るの

がお勧めという。立ち寄り地点については、学生が取材をし、撮影した写真を添えながら分かりやすい言葉でお勧めのポイントを解説。坂道や交通量の多い危険箇所についてもマップ内に示し、注意を呼び掛けている。

26日に島田町のWORX富士で開催された完成報告会には、同ゼミの小豆川裕子教授と制作に携わった213年生約20人、市関係職員などが参加。学生たちがこれまでの取り組みについて紹介するとともに、市の今後の課題や提案などについて意見を交換し合った。

サイクリングコースの検討については、全国のみちづくりで成功している主要なサイクリングロード事例の収集・分析を行った上で実施。事例の分析では、▽明確なターゲットがある▽初心者から上級者まで楽しめる▽サイクリングだけでなくブルースアルファの要素があるーなどの共通点が見付かり、分析結果と市のアドバイスを踏まえながらコースを作成したという。

マップは市サイクルステーションに配架するほか、今後開設する市サイクルステーションのホームページにも掲載するなどし、活用していく予定。小豆川教授は「マップという一つの形にしてお残すことができて良かった。学生にとっても社会人基礎力を高める活動につながったと思う。今後、市内外の方々に活用していただければ」と話した。



このほど完成したサイクリングマップ



学生がこれまでの取り組みを紹介

中級者コース②は、富士山と富士川を眺めながら走ることができ、往復約37キロの半日コースと往復約45キロの1日コースがある。距離がありアクティブなコースとなっており、体力が消費されるため、観光スポットで適度に休憩を取り、帰りの体力を維持しながら走るの

がお勧めという。立ち寄り地点については、学生が取材をし、撮影した写真を添えながら分かりやすい言葉でお勧めのポイントを解説。坂道や交通量の多い危険箇所についてもマップ内に示し、注意を呼び掛けている。

26日に島田町のWORX富士で開催された完成報告会には、同ゼミの小豆川裕子教授と制作に携わった213年生約20人、市関係職員などが参加。学生たちがこれまでの取り組みについて紹介するとともに、市の今後の課題や提案などについて意見を交換し合った。

サイクリングコースの検討については、全国のみちづくりで成功している主要なサイクリングロード事例の収集・分析を行った上で実施。事例の分析では、▽明確なターゲットがある▽初心者から上級者まで楽しめる▽サイクリングだけでなくブルースアルファの要素があるーなどの共通点が見付かり、分析結果と市のアドバイスを踏まえながらコースを作成したという。

マップは市サイクルステーションに配架するほか、今後開設する市サイクルステーションのホームページにも掲載するなどし、活用していく予定。小豆川教授は「マップという一つの形にしてお残すことができて良かった。学生にとっても社会人基礎力を高める活動につながったと思う。今後、市内外の方々に活用していただければ」と話した。